

外国人観光客誘致の現状と四国の戦略

日本政策投資銀行四国支店

1. 問題意識

相次ぐ架橋開通効果により過去10年間に亘り比較的好調に推移してきた四国の観光産業。しかしながら、架橋に伴う観光ブームは短期的なものであったことが明らかになりつつある現在、四国の観光産業は大きな曲がり角を迎えている。これからの観光産業のあり方を考えた場合、国内観光需要が空洞化する中、今後大幅な拡大が見込まれる外国人観光客市場を如何に誘致するかが地域にとって大きな課題。本調査は、こうした問題意識の下、国際観光の動向、四国における外国人観光客誘致の現状を分析するとともに、四国独自の外国人観光客誘致策について検討を行った。

2. 外国人観光客の動向

アジア・太平洋地域を中心として国際観光客数は大幅に伸びることが見込まれており、2020年には現在の2倍以上になると予想されている。特に経済発展著しいアジア地域は、中国の海外渡航緩和の動きもあり、5倍近い伸びが見込まれている。現在訪日している外国人旅行者は年間約4.4百万人であり、台湾・韓国等アジア地域が約7割を占めている。

3. 四国における外国人観光客誘致の現状

外国人観光客誘致という点で、四国は全国的にみて最も遅れた地域の一つ。香川における台湾からの国際チャーター便の大幅増便等の動きも見られるが、北海道、東北等の先進地域に比し、官民を挙げた一体的な取り組みになっていない等、総じてその取り組みは十分とは言い難い水準にある。なお、外国人観光客誘致による経済効果は、四国への来訪シェアが現状並であったとしても20年後には年間120億円（現状20億円）程度に増加し、その増加額はレオマワールド内において1年間に支出される消費額にほぼ匹敵する規模に達する。

4. 四国への外国人誘致方策

(1) ターゲットの明確化と戦略の確立

拡大が見込める東アジア各国に誘致対象を特化 後発の四国のターゲットは、リゾートやニッチ市場
近畿圏に近いメリットを最大限活用し、USJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)との連携の推進

(2) 短期的な外国人観光客誘致方策

観光資源の発掘、広域連携及び情報発信の強化 官民一体となった協議会の強化
ソフト・ハード両面での受入体制整備

(3) 中長期的な外国人観光客誘致方策

瀬戸内海を活かしたマリリゾートの整備 国際定期航路等開設に向けた取り組み
地域に精通した優秀な人材の育成

(4) 各県の取り組みの現状と課題

徳島 現状 - 関西と一体となった取り組みが中心

課題 - 最重点項目はUSJとの周遊ルートの確立。受入体制整備が急務

香川 現状 - 台湾への取り組みが奏功しつつある。先進的な取り組みも一部あり

課題 - 高松空港活用したUSJツアー。韓国ソウル便の拡充

愛媛 現状 - 韓国にウエイトを置きつつ、中国地方との連携等により幅広い国に対して誘致活動を展開

課題 - USJとの周遊ルート確立。大分や北九州と連携した観光ルート化

高知 現状 - 四国内でも一番遅れているが、マレーシアの大型クルーズ船寄港など新しい動きあり

課題 - クルーズ船乗船客が滞在期間を楽しめるルートづくりや受入体制整備